

10年目
の
我が家

変わらない安心と 変える楽しさ

広間からキッチンを眺める。広間の窓側は縁側のような場所。ぽかぽか温かい日が入り、本を読んだり日向ぼっこをしたりと、家族の和みの空間です。床板に使った杉板を見ると我が家の歴史を感じます。窓際と部屋の奥側では状態が違い、紫外線の影響や、床の使われ方の違いが感じられます。

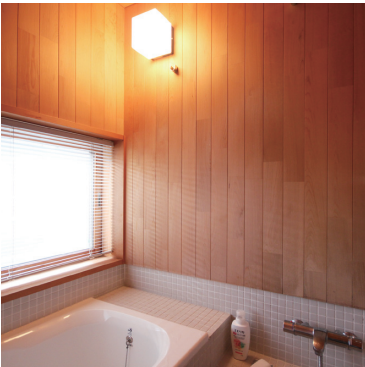
家造りは、できた時が「完成」ではなく、
住まいのカタチも、暮らしながら、その時々状況に応じて変化するものです。
時を経た木の家はどのような変化をするのでしょうか？
10年後のココラボ山崎邸を訪ねてみました。

建築例／
掛川市『落とし板の家』
文／ココラボ 山崎健治
写真／Branch 村上幸枝

「木の家に暮らす」Q & A

街を歩いていると、いろいろな家が建ち並んでいます。その中で「木の家」と言っても、さまざまなカタチや色があり、間取りや構法、樹種によっても、家の印象はだいぶ違ってくるものです。

建てたばかりの家は、キズ1つなく、削りたての木の香りが気持ちよく感じたり、床を木でつくれば、素足でも冷たすぎる事もなく、陽が入る部屋で、床にゴロンと寝転んでみたくなります。木の家にはたくさん良いところがあり、住んでみたくなるのですが、木は自然のもので、長く暮らしていく間に、どんな風に変化するのだろう。普段のお掃除のほかにもメンテナンスが必要なのか？ 月日が経つとどんな雰囲気になるのか？ 知りたいことがたくさんあります。木の家の暮らしはどんなだろう？ 実際に木の家に暮らして10年の、コロボ山崎さんに聞いてみました。



浴室の壁。10年経過しても、目だったカビは見られず、とても良い状態を保っている。一日の疲れを癒す、毎日のお風呂が楽しみ。

Q — 「自身の家を建てたときに考えた事や、苦心した事などのエピソードを聞かせてください。

A — 平成14年8月に完成した我が家は、今年でいよいよ10年目を迎えました。振り返ってみるとあつという間の10年でしたが、家族の成長や木の家の変化と共に、私自身を育ててくれた歳月だと感じています。

当初、『地域木材で木の家をつくりたい』この思いだけで家づくりに夢中になり、手当たり次第に住宅雑誌や専門書を読み、あちこち駆け巡っていたことを思い出します。住宅会社で設計の仕事はしていましたが、恥ずかしながら木の知識も少なく、詳細な納まりや家づくりの流れなどについても無知だったと思います。また、現場で働く職人さんへの心遣いや理解も少なく、無茶なお願いも多々していたように思います。

我が家が無事完成することができたのも、家づくりを通して知り合った職人さんや製材屋さんをはじめ、沢山の方々のご協力が有ったからだと感謝しています。

今思えば無知、無茶な家づくりではありましたが、無知がゆえに自分の強い思いがそのまま形となったのが我が家であり、『木』そのものに向き合ったこの家に暮らす事で、木の家の利点や欠点をはじめ、さまざまな勉強をさせてもらっていると思います。実際、雨季や乾季による木材や建具の変化をはじめ、雨や紫外線を受けての外

Q — 木の家に暮らしてみて、気持ちの上で、何か変化はありましたか？

A — 利点や欠点といった事の他、木の家特有の優しさや心地良さなど、一口では説明できない内面的な事についても肌で感じています。冬のこの時期は、暖かい日差しが室内に入り、ぽかぽかした部屋の心地良さや、薪ストーブの前でゴロつとした時の満ち足りた気持ちなど、何とも言えない幸福感を感じてしまいます。

長女の小学校入学に合わせて建築した家なので、2人の娘達にとって、木の家Ⅱ我が家ですが、旅行や色々な所に出かけて



広間からデッキを眺める。大きな窓はコロボの家の特徴になっていますが、我が家で始めて製作したときは試行錯誤の連続で苦労しました。新築後に製作したウッドデッキは床とほぼ同じ高さに作り、第二の広間として季節の良い時に利用しています。



北道路に面して門塀と車庫の扉を造りました。扉の無いときは、車庫の後ろ側のゴチャゴチャが見えて気になっていたので、これでスッキリ隠せました。車庫の板戸はとっても大きく、一枚の長さが3m近くあります。「これだけ大きな板戸はじめて作ったよ！」と建具屋さん。綺麗に造っていただきありがとうございます。

いつても、帰ってくると、「やっぱり木の家が一番だねー」と安心した様子で話をしています。子供の記憶の中で、この木の家がどの様に残っていくのか？ また、今後娘たちが成長するにあたり、物を見る目や価値観がどの様になるのか？ 現在ではまだまだ想像でしかありませんが、表面だけでなく本質を見ることができるようになって欲しいと望んでいます。

Q — 暮らし始めて10年経つと、家はどう変化しましたか？

A — 家族が成長する中で、我が家では新たに造られたものや変化したものも出てきました。

建築当時、家の本体の事ばかりに夢中で、庭の植栽や外構にかける時間や資金が無かった事もあり、色々と中途半端で止まっている工事も多くありました。10年の歳月の中、徐々に工事を行い、ウッドデッキや門などが出来上がってきました。

ウッドデッキについては後でも述べますが、試行錯誤？ 想定外の事もあり、2年の歳月を掛けて完成しました。現在コロボのウッドデッキの作り方で採用している、デッキ材に釘やビスを見せない納まりも、我が家のウッドデッキ制作の時に考えた納まりです。

北道路に面した駐車場と玄関には、外壁と同じ塗り壁と大きな板戸の門塀を造りま



新築時の外観。門塀や板戸が無くオープンな車庫でした。出入は楽ですが、何処と無く落ち着かない感じがしていました。



玄関アプローチの「諏訪鉄平石」。素材を何にしようかととても悩みましたが、自然の色の変化は見えていても飽きず、満足の仕上げに。

した。これは建築当初から計画していたもので、新築時に基礎は出来上がっていました。が、門や駐車場の扉の納まりに自信が持てず、延び延びになっていた計画です。アプローチには諏訪鉄平石の方形を貼りしました。数年前、石蔵の改装工事を行った際に知り合った石屋さんで親しくなり、色々と相談しながら工事を行ってもらいました。私と同世代の職人さんで、仕事ぶりや話の端々で、よっぽど石が好きなんだなど、感心させられました。そして、石に愛情を注ぐ丁寧な仕事ぶりにとても惹かれました。

外部のウッドデッキや門の他、内部では、広間や玄関収納の襖紙を葛布の襖紙に貼り変えました。葛は私の住む掛川市の名産とは知っていましたが、葛餅や葛湯などに目が行き、葛布の襖紙は今更…と軽視していました。ですが、こころばスクールの講座で知り合った大井川葛布さんのお話を聞き、間近で見た葛布の艶や表情に惹かれていき、新築した際に選んだ鉄紺の襖紙がお気に入りでしたが、新築後すぐに焼けはじめ、あつという間に薄紫色に焼けてしまいました。3枚並んだ襖紙を見ると少し恥ずかしい気持ちもあったので、思い切ってこの葛布に貼り変えました。今までの紺色とは全く違った雰囲気、部屋も明るくなった感じ。何といても葛布の艶が魅力的です。和紙の襖紙と比べると少々金額が上がりますが、時間を経過した葛布の色艶もまた楽しみです。



現在ピアノのある部屋は、元々は子供達のスタディールームとして使用。オープンな場所で勉強する事に慣れ、現在でも子供部屋の扉は開いたままで勉強しています。

Q — 最後に10年を振り返ってみて、『木の家に暮らす』ということの心得などありますか？

A — 10年を振り返り、木の家の経年変化と共に、だんだんと家が完成していく喜びや、変化する楽しさを感じています。『家は、出来た時が完成ではなく、だんだんと造り上げていくもの』と、よく耳にしますが、まさに、私の実体験そのものだと感じています。家族構成によつてさまざまだと思いますが、建てた時のままでずっと暮らしていけるわけではなく、家族の成長や変化に合わせて家も変化していくのが自然な事。この部屋は「子供部屋」とか、「寝室」と決めつけず、柔軟に変化できる要素を併せ持つ間取りも必要だと感じています。また、その様な変化が楽しく、家の中に新しい風を入れてくれるようにも思います。家の耐震性や手の掛け難い部位は簡単にえられる場所ではないので、耐久性のある材料でしっかりと造る事が重要ですが、建具や設備などといった場所は、その時の暮らしに合わせたものを選び、暮らしに彩を与



新築時の鉄紺の襖紙。開けている事が多く、日のあたる一枚だけが焼けてしまいました。「一枚だけ違う色を使うなんて、山崎さんオシャレ」って言われたけど、違う違う！

ました。元々、ダイニングキッチンに隣接している12帖の部屋を家族の寝室として使い、広間横の6帖を娘達のスタディールームとして使っていました。なので、所謂子供部屋と言うものがありませんでした。計画当初、いずれ子供たちが部屋を欲しいだろうと思い、12帖の寝室を6帖ずつに分けて子供部屋に使用しようと思っていましたが、小学校上級生になっても、長女が中学生になっても特に子供部屋が欲しいとは言わず、このままでも大丈夫なかなと思っていましたが、さすがに二人とも中学生になると言うことで、子供部屋を造ることになりました。と言っても、ダイニングキッチンと続いた部屋ということで、個室といった雰囲気ではなく、ダイニングの一角という子供部屋です。勉強しているからと引き戸を閉めると「開けておいて」と。我が家は家全体がワンルームのような構成なので、個室で勉強するという感覚がなくなっているようです。でも、年頃になってきたら何

て言うかな？

寝室が子供部屋になったということで、私たち夫婦の寝室はどこへ行ったのでしょうか？ 当初予定して計画もありましたが、そう上手くはいきませんでした…。この続きは最後のページまでお楽しみ。

えるのもよいかもしれません。

変わらない安心と、変化する楽しみ。自らの経験を活かし、どちらも併せ持つ木の家を造っていききたいと思っています。

(聞き手／村上幸枝)



木の色艶が増し、暮らしに馴染む我が家。



新築時に比べ、木の色艶が増してきました。杉の白太と赤味の差が無くなり、全体的に統一された色に変化し、落ち着きも増してきたように思います。家族とともに年を重ねているような感じで、益々愛着が湧いて来ます。

想定外のお話



寝室／家族の寝室として使っていた12帖の部屋を子供部屋に。部屋には仕切りが無く、共有の部屋として使用。



大谷石を貼った幻のテラス／今見ても何だか淋しい雰囲気…。設計屋としては良い経験をさせて頂きました。



大きく作ったウッドデッキ／縁側のような場所やテーブルを置く大きな場所、物干し専用の場所など、繋がっていますが、それぞれの役割に分かれたウッドデッキです。



引き戸で作ったオリジナルキッチン／引き違い戸を閉めると食器洗浄機や引出が隠れ、綺麗に見えますがそこが問題。我が家の今後の課題です。

Q & Aの中でもお話ししましたが、次女の中学校入学に合わせ、今まで家族全員の寝室として使っていた部屋を二人の娘の部屋にしました。この計画は新築当初から考えていたことで、その時は娘達の使っていた6帖のスタディールームを夫婦の寝室にしようと考えていました。しかし、広間と3枚の襖でつながったこの場所にベッドを配置すると、広間の広がりも絶たれ、また、寝室としても落ち着かない…。日当たりがよく気持ちの良い場所なのですが、私の中で納得がいらず、最終的には今まで納戸として使っていた6帖の部屋（押入れがあるので、実質的には4.5帖）に無理やりベッドを押し込んで寝室にすることになりました。妻からは、「狭い」とか、「収納場所が無い」と愚痴を言われていますが、広間の雰囲気は確保されたことで私は満足！でも、やっぱり狭いな…。

当初の設計段階から広間とダイニングの開口部に大きなウッドデッキを造りたいと考えていました。しかし、新築当初は予算的に厳しく、『いつかは！』と楽しみにしていたウッドデッキでしたが、ふと見た住宅雑誌に載っていた住宅に素敵なた石張りのテラスが有り、急遽、大谷石のテラスを造る事にしました。自分でコツコツ据えた束石を取り外し、いつも基礎をお願いしている職人さんに大谷石を張ってもらいました。綺麗に出来た石張りのテラスですが、中央にテーブルを置いてもなんだか落ち着かず、数か月経ってもテラスを利用することが無い。床から一段低いテラスだったので、テラスに降りて使おうという気持ちになれないのだと気が付きました。部屋の床レベルであればもう少し利用したと思いますが、私のイメージとはほど遠く、1年を経過する頃に、計画当初から考えていたウッド

デッキを造る事になりました。ウッドデッキは、ほぼ床と同じ高さで造り、裸足のまま利用するようにしています。デッキの中央にはデッキの端材で造ったテーブルとベンチも置き、季節の時に、家族でランチやお茶を楽しんでいます。折角張った大谷石はというと、そのままデッキの下に敷かれています。基礎屋さん、ゴメンナサイ。

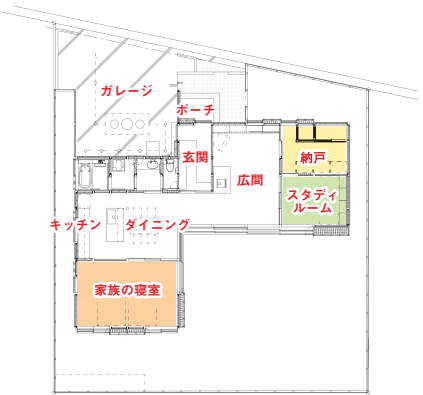
現在コラボで家づくりを行う方的小伙伴们が、大工や建具屋さんが制作するオリジナルキッチンを設置しています。これはじめの一台も我が家のキッチンです。住宅設備機器のショールームを廻りましたが、価格と要望が全く合わず、また、木屑を圧縮した様な素材で出来ているキッチンには魅力を感じませんでしたので、初めての試みでしたが、無垢材を組み上げたキッチンを造る事にしました。食器洗浄機や小引出も付け、それらを隠す為に前面に引違扉を

寝室の場所

テラス？デッキ？

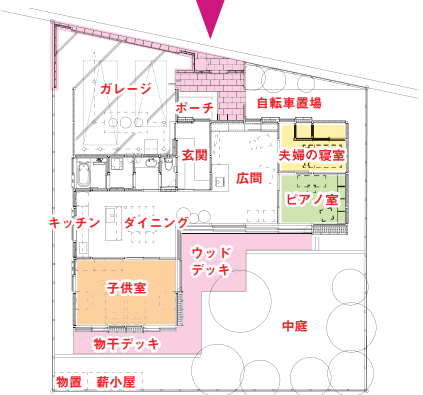
キッチンの扉

暮らしに合わせた部屋の使い方



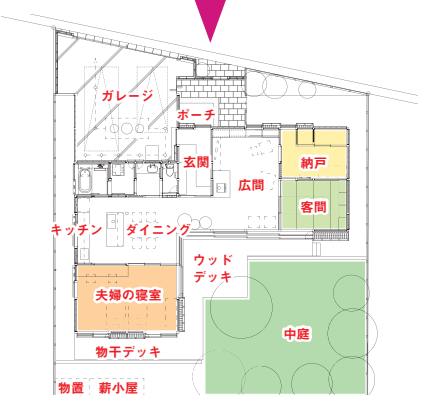
【新築時】1階平面図・敷地図

スタディールームには子供たちの机を置き、主に勉強部屋として使用。キッチンから離れていますが、家事をしながらも、妻の目はいつも光っていました。寝室にはベッドを3台置き、家族みんなて寝ていましたよ。懐かしい…。



【現在（10年後）】1階平面図・敷地図

想定外のお話に出てきますが、寝室を子供部屋にしたので、私達夫婦の寝室は、元々納戸として使っていた部屋を使うことになりました。ベッドだけの部屋ですが、ガマンガマン。



【未来（20年後）】1階平面図・敷地図

子供が巣立った後、寝室を戻して広々寝かせてもらう予定！ピアノの部屋は和室にして、子供達が里帰りした時の寝室にしようと思っています。現在の庭は自己流のボサボサ庭なので、余裕が持てたら観賞用の庭を作りたいと夢見ています。



これからの我が家

娘の成長と共に歩んできた我が家ですが、今年の春で、長女が高校2年生、次女が中学3年生になります。子供の成長は早いもので、あと数年で娘達もこの家から巣立っていかもしれません（涙）。計画当初、二人の娘達にはアトピー性皮膚炎の症状が見られ、同時期にシックハウスという言葉も耳にするようになっていました。住宅設計の仕事の中で、デザインや機能、性能を重視視していた私は、自邸の建築で、『何を大切にすべきか？』ということに気付かされたように思います。また、お施主さんをはじめ、家づくりには多くの職人や業者さんが関わります。それらの方々の思いや技術に応えた家づくり、また、エネルギー使用の問題や、森林をはじめ、環境にも配

慮した家づくりが大切であり、当たり前のことだと思ふようになりました。これらの事を考えた時、住宅という家族の最小単位を守る建築物として、可能な限り、地域の木材を使い、地域の職人さんと共に、丈夫で心地良い木の家を造ろうと考え始めました。全国的に広がりを見せている木の家ですが、話を聞いても写真を見ても、まずは自分がその中に入り、経験値を上げる事が大切だと感じています。木の家を建てたいと望む方々に、少しでも経験談としてのお話をさせていただき、参考にさせていただきたいと思っています。

仕様内容	
家族構成	夫婦、子供2人
敷地面積	303.88㎡
延べ床面積	127.98㎡
構法	落とし板壁構法 平屋建て
外部仕上	屋根 ガルバリウム鋼板 外壁 ラスモルタル下地、ジョリパット エンシェントブリック仕上げ 外部建具 木製オリジナル建具 ヒバ
内部仕上	天井 杉野地板現し ア 30mm 壁 杉落とし板現し ア 30mm、漆喰塗り 床板 杉板 ア 30mm
設備	キッチン オリジナルキッチン 洗面化粧台 オリジナル化粧台 浴室 天井・壁：青森ヒバ貼り 床・腰壁：タイル貼り、ポリコン 33
設計者	山崎健治
竣工	平成 14 年 8 月

10年経ってもまだまだ家は完成ではなく進行形です。そして、その過程を楽しみながら、この木の家と共に歩んでいきたいと思っています。